



T.K さま

『おばけのてんぷら』

**せな けいこ 作・絵
ポプラ社**

幼い頃、年度末になると母の仕事が繁忙期となり帰宅が遅くなるため、私たち姉弟の面倒をみる目的で毎年、母方の祖母に2週間ほど泊まり込みで来てもらっていた。

祖母は遠方に住んでいたの、一緒にゆっくり過ごせるこの期間は貴重だった。祖母の子供時代の話の聞いたり、手料理を食べたりする時間は、私の楽しみでもあった。

私が6歳の春、公民館で絵本の読み聞かせ会が開催され、祖母と一緒に参加した。その時に読まれたのが、絵本『おばけのてんぷら』だった。

かわいらしいさぎさんが、てんぷらを作る印象的なストーリーに引き込まれた私は、帰りの道中、テンションが高かった。「おばけのてんぷらってどんな味かな。ねえおばあちゃん、おばけのてんぷら作ってよ！」

そう声に出した時、つないでいた祖母の手がびくんと動いたことを覚えている。想定外のリクエストが飛んできて、驚いたのだろう。ともあれ、祖母はおばけのてんぷらを作ることを了承してくれた。

翌日夜、食卓にてんぷらが登場した。「おばけのてんぷらはどれ？」

「これだよ」ナスやカボチャなど、いつものてんぷらが並ぶ中、祖母が指さした先に、白っぽい色をしたおばけのてんぷらが！「いただきます」ときどきしながら口に運ぶ私。頬張ると、やわらかな食感と共に、甘くふんわりとした味わいが広がった。

「おばあちゃん、おばけのてんぷら、おいしいね」

絵本では描かれなかった、おばけのてんぷらの味を体験できた私は、歓喜してたくさん食べた。そんな私をニコニコ見つめる祖母の優しい眼差しは、今でも忘れられない。

後年、あの時のおばけのてんぷらの中身は玉ねぎだったと、母から聞いた。当時、食わず嫌いで玉ねぎを避けていた私に、食べさせる絶好の機会として祖母が利用したという。

祖母が亡くなり15年以上経つが、おばけのてんぷらは、祖母と私を繋いでくれている。おばあちゃん、あの時、私の無茶ぶりに応えてくれてありがとうね。

玉ねぎのてんぷらは、今や私の好物だよ。